

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3070102722		
法人名	株式会社リバソン		
事業所名(ユニット名)	グループホーム なぎのやど u2		
所在地	和歌山市下三毛870-2		
自己評価作成日	令和6年1月28日	評価結果市町村受理日	令和6年4月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	令和6年3月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

なぎのやどでは、ご利用者様またスタッフを含め家族となり、地域の方々との交流を行いその人らしい普通の暮らしを愛する地域での日常生活をご支援させていただきます。
またご本人様、ご家族様のご希望があり医師の始動のもと可能な限り看取りまで支援させていただきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、自然豊かな小高い丘の住宅地にあるため、地域に溶け込み共存している。利用者と地域住民が寄り添えるように、消防訓練などは地域住民と一緒に、地域に密着した関わりをしている。また、利用者へ喜びや楽しさ、明るさなどが伝わるように、働くスタッフが楽しく過ごせるよう配慮している。働くスタッフは、長期勤務者が多く、利用者一人ひとりの様子や仕草を熟知し、個々に応じた介護が実施できている。また、認知症に関する研修を積極的に取り入れ、熱心に勉強しているため、認知症への理解がスタッフに浸透している。医療体制は週1回の看護師の訪問があり、また、緊急時や夜間の対応可能な提携医がいるため、医療への連絡体制もスムーズである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新人職員にもその人らしい暮らしという部分を理解してもらえるように新人研修で運営理念の理解を取り入れている。	『その人らしい普通の暮らしを愛する地域で』という理念をホールに掲げ、朝礼時に唱和している。約5年前に見直しを行い、簡潔に周知しやすい形に変更し実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小学生が交流に来てくれていたがコロナ禍で途絶えていたしかし昨年より学校からの申し出により主治医に相談し再開することができた。同時に中学生の職場体験も再開できた。ゲームやプレゼントを持参してくれ楽しい時間を過ごすことができています。	地域の小学生が来訪し、手作りの紙芝居や釣りゲーム等を利用者と一緒に楽しむ機会も再開できている。中学校の職場体験の受け入れも再開し、今後、地域のもち投げや夏祭りなどが再開された場合は参加する予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の自治会と事業者が連絡を取り合清掃活動に参加している催し物はコロナで減ってはいるが地域の人々に理解を頂けていると思う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を開催しホームの現状や事故・苦情件数・内容報告をしている。また防災訓練の実施、地域活動への参加、感染対策、安全対策等の課題を含め委員に意見を求めサービス向上に努めている。コロナ蔓延により書類送付のみになっているが意見交換は行えている	2ヶ月に1回事業所内部で開催し、地域の代表者や家族、包括等あて、感染対策等話し合った内容を郵送して情報共有している。今後、運営推進会議の開催を対面で話し合えるよう予定している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者にはその都度不明点を聞いている。生活保護課、指導監査課、地域包括支援センターの担当者とは常に情報交換を行い不明な事は相談している。	市町村の介護保険課、生活保護課、包括支援センターの担当者と、メール等で常に連絡をとり、協力関係が築けている。不明点は、その都度直接聞くことで市町村との連携はスムーズにできている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は施錠せずに外に出れるようにしている。また研修にも開催し自施設での月例会議の議題にも取り上げている。	3ヶ月に1回身体拘束適正委員会を開催し、スピーチロックについての研修、権利擁護について学ぶなど質の向上に努めている。日中は施錠せず、開放的に過ごせるように工夫し、必要があればスタッフが付き添い、利用者と一緒に散歩を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定例会議事業所内で行い伝達講習を行い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内での伝達講習を行い防止に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に説明をし、理解を得られるようにしている。疑問などには都度お応えしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1度家族会を開催していたがコロナのため開催できていないが、管理者が個別に意見を交換している。また玄関に意見箱を設置し、運営に反映させている。	家族の意見が聞きやすいように個別面談したり、連絡が取りやすいように携帯メールなどを活用し、意見反映につなげている。コロナ禍で開催できていなかった家族会を、今後再開する予定である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者とスタッフが面談を行い意見や希望を伺う機会を設けている。それにより環境が改善されています。	担当別に分かれて各会議(防災、感染、認知症、安全など)を行っている。各会議に管理者が出席することで、職員からの意見や提案が出しやすく、運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスOJT評価シートを作成しスタッフは取り組んでいる。シートに対して評価を行いキャリアアップをすることにより給与水準や、やりがい等、スタッフ個人の向上心に繋がるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修はコロナ禍より減ってはいるがzoom等で参加している。自社ではキャリアパスOJT個別評価シートを作成し、段階に応じてスタッフ個人のスキルアップに努めている。代表、管理者が全て把握している。また定期的にスタッフ間会議を開きスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内事業所では意見交換は行っているが他事業所はコロナのため交流は行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際、希望や要望を聞き入れ、極力反映するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	こちらも入居の際に希望や要望を聞き入れ、極力反映するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や、家族と話し合い必要な支援を考え実践している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の調理・洗濯等を手伝ってもらったり、職員が分からない事は教えてもらったりと関係は築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かあれば家族の方に連絡をし、連絡を頂けるとい相互関係を築けている。家族の方が気楽に来れるような環境作りにも努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望があれば馴染みの場所にも行くようにしている。また数年来の友人も気軽に面会に来て頂いている。	現在は、事前の連絡後、20分程度で面会が可能な状況である。希望があれば一時帰宅し、外泊も出来る。今後、面会の制限をより緩和し、馴染みの関係が途切れない支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、ダイニングでの座席を割り振る等孤立せず利用者同士が関わり支え合えるような環境づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した利用者や家族の方にもイベント参加の案内をお出しする、またボランティアをして頂く等、関係の継続に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや暮らしの希望を自分で話してくれる方はそれに沿えるように支援している。またそれが困難な方に関しては日頃良く観察し様子や動きから推し量り検討し対応するようにしている。	本人のこれまでの生活状況を確認したり、直接本人や家族から希望を聞くなどして、思いの把握に努めている。意向の把握が困難な場合は、行動観察やケアの中でくみ取り、スタッフ間で検討し対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族のバックグラウンドを把握して職員がそれを共有し、これまでのサービス利用の経過等に反映するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の介護記録用紙に1日の過ごし方を記録し、申し送りを共有している。特記事項があればノートに書きしるし共有を行っている。また月1回のカンファレンスを行い以前と変わったことを話し合い現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者家族の意向を踏まえ、職員のカンファレンス内容や家族来訪時に出された意見・要望を基に介護計画を作成している。家族には定期的に見てもらい同意を得ている。	利用者の声や気持ちを大切に考えて、利用者の生活に寄り添ったケアプランを作成している。また、スタッフ間で声を掛け合い、チームで現状に即した支援ができています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の介護記録用紙に1日の過ごし方を記録申し送りを共有している。特記事項があればノートに書きしるし共有を行っている。また月1回のカンファレンスを行い以前と変わったことを話し合い現状の把握に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者が個人的に付き合いのある馴染みの場所(美容院、化粧品店、墓参り等)への付き添いや、家族の入院の際には、見舞いに付き添う等の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者ひとり一人の様々な地域資源を把握しており、それを活かし生活できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の多くが希望するかかりつけ医に月1回往診を受けている。また、必要な場合は適切な医療機関で診察が受けられるように紹介してもらっている。	看取りや緊急対応が可能な提携の内科医が、月1回往診している。看護師も週1回訪問し、必要時にはオンコールでの対応を行っている。皮膚科、眼科、総合病院などへの通院は家族対応を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携している訪問看護師が週1回来られている。また、特変事項があれば連絡をし適切な受診や看護を受けられるように連携を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医師に、入院者の細かな状況説明を行っている。またかかりつけ医による利用者の情報書類を書いてもらい入院先の医師に渡している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時重要事項説明書で重度化した場合や終末期の看取りに関する指針について説明を十分しており、重度化した場合はかかりつけ医師と家族、職員が話し合い方針を決めている。	入居時に、看取りの指針についての説明を行っている。重度化した場合、家族と主治医が相談し、看取りについての方針を決めている。看取りを行った後には、より良いケアに繋がれるようスタッフ間で振り返り、支援についての話し合いを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署で開催している救命講習に参加し定期的にホームでも研修を開催し、身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各種災害に対する防災マニュアル(案)を策定しそれをもいとにスタッフに周知徹底行なっている。またさまざまな災害を想定した避難訓練を地域の方と共に定期的に行っている。	年2回、昼夜の火災を想定し避難訓練を実施している。水消火器を消防署よりレンタルし、近隣の方々と一緒に訓練を実施している。自家発電機も設置し、停電に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の個人個人の人格を尊重し、きちんと考慮した言葉かけや対応をしている。	接遇の研修の中でチェックシートを活用し、利用者への対応の振り返りを行っている。プライバシーを損なわないように、トイレの声掛けを小声で行うなど、接遇研修での学びを活かし、人格を尊重した対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何がしてほしいか表せる利用者には希望を聞き、実行している。表すことが困難な利用者に対しては、簡単な質問をしたり、表情を見たりして出来るだけ自己決定をしてもらえるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の決まりを優先せず、利用者の希望に添って外出の支援をしたり、自分の居室で過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が着たいものを選んでもらっている。職員と一緒に選び本人に最終決定してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は得意な事や力量に応じて食事の準備やあとかた付、盛り付けなどを職員と行っている。またホーム敷地内のウッドデッキで食事をしたりしている。	毎回利用者と相談し、手作りの食事を提供している。庭でお茶やコーヒーを嗜み、風を感じ、風景を眺め、外出した気分を味わえるよう工夫している。また、焼肉をしたり、クリスマス、敬老会などのイベントを行うことで、季節を感じる料理を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は食材の内容が偏らないようにバランスを考慮したメニューを作っている。また食事や水分摂取量も記録している。その人に適量であるかにより調整している。なお定期的に体重を測り急な体重の増加に注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問衛生士が週一回きてくれ、口腔チェック口腔清掃を行ってくれる。食後は職員が一人ひとりの口腔ケア、洗浄介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的なトイレの声掛けや誘導、介助を行い、排泄パターンを把握し排泄の失敗や、紙パンツの使用を減らすように支援している。	利用者の様子を注意深く観察し、排泄周期をスタッフが見計らうことで、パットの使用頻度が減った利用者もいる。自尊心に配慮し、排泄の失敗が増えないように、排泄の自立にむけた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容に野菜の多い献立を提供し適量な水分摂取をしてもらうように働きかけている。便秘がちな利用者には腹部マッサージ・ベッド上での運動も取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日でも入浴は可能であるがほとんどの利用者が隔日に入浴している。入浴順も偏らず入浴できるようにしている。季節ごとにゆず湯や、菖蒲湯を楽しんでもらっている。	隔日の午前に入浴を実施している。重度化するとシャワー浴での対応をしている。入浴の順番なども平等になるように配慮し、希望時は、毎日入浴することも出来る。季節ごとに、柚子湯、菖蒲湯などを実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で休みたい利用者には自由に休んでもらえるようにしている。体調の悪い利用者は安心して休んでもらえるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の投薬内容と効果、副作用をファイリングして用法や用量を理解している。また、投薬後の利用者の状態の変化を注意ぶかく観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者それぞれの力量に応じて掃除、料理、洗濯物干し花植え、草引きや水やりなどしてもらっている。またカラオケ、買い物や、季節の行事花見、夏祭りクリスマス会等行い楽しく暮らせる支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な利用者の希望に応じて近くのスーパーに買い物やドライブに出かけている。また、年に1回観光旅行を企画していたがコロナによりできていないが、ブドウ狩りなど貸し切りのできる場所を探し対応している。	日中は開放しているため、スタッフと一緒に散歩をしたり、月1回程度、利用者と一緒に買い物に行き、洋服や日用品、嗜好品などを購入している。コロナ前に行っていた神戸、白浜方面への観光旅行の再開を検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が希望すれば所持してもらい好きな時に使う事が出来るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望すれば極力添えるようにしている。また携帯電話を所持し自由に使用されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掲示物等なくシンプルな空間にしている。トイレや浴室の表示がわかり易く落ち着いた空間を心掛けている。リビングには季節の花を飾っている。また共同室からの展望が良く、ホームに居ながら季節を感じる事が出来る。	仲のよい利用者同士が、気分よく過ごせるように、座る席の配慮をしている。カーテンを大きく開け、外の景色を一望できるように、開放感や採光などに配慮している。一緒に洗濯物を畳んだり、和やかに過ごせるように工夫した空間作りをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中にも利用者個人個人が気に入ってる場所が有り、気の合う利用者同士が自由にコミュニケーションを取られている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具等は本人、家族が持ち込み、壁には家族の写真や手芸品を置いたりして居心地良く過ごせるように配慮している。	使い慣れた家具や仏壇、家族写真など、本人にとって思い出のあるものを、自由に持ち込んでいる。カレンダーに、予定や出来事を日記のように書いている利用者もいる。本人の自由が尊重された居心地のよい居室づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には表札を掲げている。その他トイレや風呂場等もわかり易く表示している。広場や居室内の段差や足がひっきりやすいものは極力取り払い安全にも配慮している。		